

「北日本新聞」2016年04月14日 22:44

後絶たない不法投棄 二上万葉ラインに大量の家庭ごみ



■ 対策強化求める声も

高岡市の二上万葉ラインで近年問題となっている家電、タイヤなどの不法投棄が後を絶たない。付近を走るジョギング愛好者や市内のボランティア団体が定期的に清掃活動を行っているがいっこうに減る様子はなく、対策強化を求める声も上がっている。（高岡支社編集部・瀬戸もえぎ）

二上万葉ラインは、二上山の山腹から山頂を巡る全長約8キロの観光コースで、多くのジョギング愛好者の練習場所となっている。万葉健友会（本多裕会長）や日本曹達陸上部、ファンランエアーズなどの地元の愛好者グループは、感謝の気持ちを込めて付近を毎年清掃しており、今月3日の活動には約40人が参加。道路から見えにくい谷底に多く捨てられていたため、谷底まで下り、ひもやかごを使って回収した。

圧倒的に目立つテレビやタイヤ、自転車のほか、半日の活動で古紙など約80袋分のごみが集まった。参加者は「捨てていく人の気持ちが分からない」「悔しい」と憤りを隠せない様子。万葉健友会の江寄末廣事務局長は「定められた回収日があるのに理解に苦しむ。行政は注意喚起を強化してほしい」と話した。

市環境サービス課は「不法投棄が多い場所には、監視カメラを設置したり定期的にパトロールを行ったりしている」と説明。昨年は同ラインにも一時的に監視カメラを設置し、ことしも期間を決めて設置する予定だという。二上山公園を管理する市花と緑の課は昨年、新たに不法投棄を注意する看板を設置。担当者は「不法投棄は当然違法行為。今後警察とも連携した対応をとる必要がある」としている。